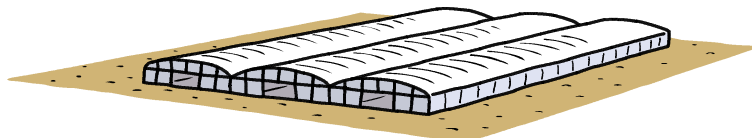


多賀台 奈良 孝次郎

### 3. 〈栽培の広がり と 組合の結成〉

いちご栽培において大事なことは、市場において供給されるいちごが、年によって減少したりすることがないことであり、そのためにいちご農家が組織化されることが必要だった。それにこたえて昭和34年(1959)、**浜市川 苺生産組合**が会員80人余で結成された。(初代会長は**木村徳男氏**)

組合のねらいは、生産の向上・組合員の増加・販路の拡大などだった。当時の農業の大きな問題は、米あまりからくる田地の減反政策で、この頃から浜市川地区では米作からいちご栽培へ転換する農家が増えた。その後の大きな変化は、露地栽培だけだったいちご栽培が、昭和47年(1972)からハウス栽培も行われるようになったことである。



### 4. 〈いちご栽培の現状と課題〉

いちご栽培はその後組合員が増加し、生産を拡大していった。品種の改良もあわせて進められた。いちごの品種は初期は**紅玉**から**ダナー**、その後は**宝光早生**へと進み、さらに**麗紅**が主流になった。麗紅は果実が大きく実が固い。それでも葉枯れ病などが発生する。

現状は、生産組合が「八戸苺生産組合」と「八戸広域農協いちご部会」の二系統があり、組合員・栽培面積共に増加傾向にある。問題点も抱えている。病気の発生に強い品種改良・燃料の高騰への対応・品質を保った上での長期的な出荷をどうするか、などである。

以上の要点は、**木村仁松氏**から聞いたことをもとにし、デーリー東北新聞掲載のいちご栽培に関する記事を参考に構成した。 参考:「聞き書き多賀の百年」(八戸市立多賀小学校創立100周年記念誌)



### 石碑をたずねて④

- 1. 名称 「愛土有土恵」 桔梗野 安田 廣
- 2. 意味 「土を愛するは 土の恵みあり」

3. 場所 八戸市大字市川町字尻引

4. 内容 神明川原土地改良区



- ・着工 昭和32年12月3日
- ・完了 昭和36年3月31日

- \*事業量 449町3反3畝17歩
- \*受益者 598名
- \*事業費 **83,952,285円**
- ・国庫補助 22,684,000円
- ・自己資金 61,268,285円
- \*当時: 1 俵 4105 円、日当 360 円

5. 由来 区画整理事業完成に伴い、昭和36年度農地集団化優良地区として、農林大臣賞を受けた記念に建立されたもの。理事長は**川村次雄氏**。

6. 思い 昨今の農業事情は大変厳しいものを感じる。減反政策の中、事故米輸入問題等は如何なものか。食の安全を守ってもらうためにも、顔の見える地元の農産物を食したいものがある。市川の農業関係者には元気になってもらいたいと思っている。



